

学校法人聖カタリナ学園
聖カタリナ大学短期大学部
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

聖カタリナ大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 聖カタリナ学園
理事長名	中田 婦美子
学長名	ホビノ・サンミゲル
ALO	中島 紀子
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	愛媛県松山市北条660

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育学科		100
	合計	100

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

聖カタリナ大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 7 月 9 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の建学の精神は「愛と真理」の言葉に表され、学内随所には建学の精神にまつわる宗教画などの掲額がなされており、学生、教職員とも日常的にその精神を感じ取ることができる。建学の精神・教育理念は学長訓示とともに新年度のオリエンテーション時に周知され、また、『キャンパスライフ（学生生活の手引き）』に明示されている。学則第 1 条にはその使命として、「カトリック精神に基づく人格教育を基盤として、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成して人類の福祉と文化の発展とに貢献すること」を掲げ、「健全有為な人材育成」と「高等教育機関として地域社会に貢献寄与すること」を当該短期大学の教育方針・目的として教育内容及び教育環境が整備され、社会的活動が積極的に展開されている。

教養科目、専門科目は体系的に設定され、各科目ともシラバスによりあらかじめ授業に関する情報が得られるように配慮されている。また、在学生に対して授業評価アンケート調査、満足度アンケート調査を行い、その調査結果は各種委員会を通じて教育内容や学生支援体制の改善に役立てている。

教育環境、教員数は短期大学設置基準を充足している。入学支援、学習支援、学生生活支援、進路支援などの学生支援活動は、各課事務職員も併せてクラス担任制・アドバイザー制を設け、各種委員会、両学科と併設大学と連携を取りながら十分な対応がなされている。

教員の研究活動はその環境整備が十分整えられ、併設大学と共同でキリスト教研究所及び人間文化研究所を有し、フォーラムの開催や研究所紀要の刊行などの活動がなされている。

保育学科では、教員の社会的活動が積極的に行われており、教育理念に基づき、高等教育機関として地域社会に貢献している。さらに、学生によるボランティア活動なども積極的に推進されている。

学校法人は当該短期大学のほかに附属幼稚園と関連高等学校を有するが、管理運営面では規程にのっとり、おおむね理事会、評議員会が適切に開催されている。また、

教学面については理事長、学長がリーダーシップを発揮し組織的に機能している。

財務面では、財務運営を健全な状態にするための施策を平成 16 年より取り組まれ、事業計画策定の手引きに従って収支改善が遂行中である。

改革・改善については、自己点検・評価報告書を発行し、検討されている他短期大学との相互評価、今回の第三者評価と、積極的な改革・改善の努力が行われている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学内随所に各教室までにも、建学の精神にまつわる宗教的イメージの宗教画や美術品等が展示されており、学生や学園を訪ねる者に対し「愛と真理」の姿が、語らずとも拝観できる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 公開授業を行い、教員間で相互評価を行っている。学生アンケートから改善が必要と感ぜられる科目については、授業内容改善につながる個別指導を行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生に対して、リカレントセミナーとして、卒業後教育を毎年継続して行っており、また、教材の貸し出し（おもちゃライブラリー）などを行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- キャンパス内は、完全バリアフリー化され、ゆとりを持った施設設備環境である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 平成 18 年度に、短期大学内にカタリナ子育て支援広場「ぼけっと」を立ち上げ、

地域の子育て支援を行っている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 理事長、学長のリーダーシップにより、健康栄養学科を平成 21 年 4 月に募集停止し、保育学科に絞り込み、従来の施設設備・環境・教育人材を生かして質的向上を図っている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生への評価については、現状では、実情を把握しているものの標準化した記録にはなっておらず、記録化し、資料化できるような対応が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金はあるものの、短期大学部門の収支バランスの改善が望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 学科改組などを目的とする学科別シミュレーションが繰り返し実施され、その結果を踏まえ、学科の募集停止を決定するなど、収支改善への取り組みがみられるものの、短期大学全体の収支改善のために必要な中・長期の財務将来計画の策定が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学を設置する学校法人聖カタリナ学園は、昭和41(1966)年に聖ドミニコ宣教修道女会において設立され、現在に至っている。当該短期大学の建学の精神は、聖ドミニコ修道会精神に基づいた「愛と真理」である。教育理念も学訓「誠実・高邁・奉仕」と明記され、それらは、学則及び「学生生活の手引き」にも明確に示されている。また、外部に対して「学報カタリナ」や広報誌「カタリナひろば」などで開示し、学生には必修科目の「キリスト教倫理学」や「宗教学」の授業などや、入学時のオリエンテーション時だけでなく、ガイダンスなどで周知されている。宗教行事の際にも学長自ら周知徹底を図っている。特に正門を入ると宗教的立像や、聖堂には聖ドミニコにまつわる宗教画、図書館エントランスの聖人像、各教室の掲額・展示があり、学生、教職員とも日常的にその精神を感じ取ることができるだけでなく、各教室の掲額、カトリック系短期大学の理想、建学の精神が継承されている。今後は、これらの建学の精神・教育理念に基づき、平易に明文化された各学科の教育目的、教育目標を各授業科目に反映させ、さらに定期的に検証されることが望まれる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・教育理念に基づいた科目が、いくつか設定され、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、栄養士免許などの免許・資格のために必要な科目設定がなされている。教育課程は体系的に編成されているが、多様な教養教育の科目設定については、学生の取得意欲がもてる時間的配分が望まれる。また、演習科目について、一部100名近いクラスがあり、適切な規模での実施が望ましい。

シラバスなどにおける、授業内容表記や評価方法、また、学生に提示する方法に工夫が望まれる。授業改善などは、公開授業や学生アンケートに基づく教員への指導など一定の努力が行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数は、短期大学設置基準を上回る人数が確保されている。しかし、個人調書、研究業績書をみると、実践的な活動実績は大いに認められるが、学外での研究業績としてはやや乏しい。専門領域についても偏りがみられ、教員配置の検討が望まれる。

教育設備環境については、広い敷地内で図書館、体育館、ピアノ練習室、コンピュータ室なども十分に設けられ、授業外にも開放されており、よい環境にあるといえる。学生も、施設を活用している様子がうかがえる。また、バリアフリー化も進められており、環境整備も整えられている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成に向け、実習指導やピアノ指導など、個々の教員が個別に様々な努力を行っており、その成果をあげている。また、出席状況調査を非常勤教員も含めて毎月行い、学生に対して個別に指導しているなど、努力がなされている。

その成果として、休学者、退学者が2学科とも少数に留まっている。一方、保育士資格、栄養士免許を取得して卒業する学生数が減少しており、対策が望まれる。

卒業生の評価については、アンケートなどの大規模な調査は行っていないが、就職お礼訪問の際に聞き取り調査を行い、この聞き取り調査により実情は把握されている。卒業生に対しては、リカレントセミナーを開催し、また教材の貸し出しを行うなどの支援を行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する情報は、建学の精神をはじめ、種々の情報が短期大学案内やウェブサイトに掲載されており、入学後は、クラス担任制のほかにアドバイザー制を設け、学生の学習、生活支援体制が確立されている。就職に関しては、それぞれの学科の教員で組織する就職委員会と事務局就職課による支援が行われ、両学科とも就職率は良好である。当該短期大学は、留学生を毎年受け入れており、事務局学生支援課が中心となり支援に当たっている。また、障がい者を受け入れる体制も整備されている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、個人差があるもののおおむね活発である。併設大学と共同でキリスト教研究所及び人間文化研究所を有し、フォーラムの開催や研究所紀要の刊行などの活動がなされている。他にもグループ研究活動も行われ、教員の研究活動への意

識は高い。研究成果は、毎年併設大学と共同で発行する研究紀要に発表されている。専任教員には十分な広さの個人研究室が与えられ、週1日の研修日が設定されている。研究費支援関係も規程は整備されており、研究活動の条件整備は整っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域社会への貢献として、カタリナ子育て支援広場「ぼけっと」や、ボランティアセンターによる活動がなされている。リカレントセミナーでは、対象を卒業生以外にも広げ、地域との交流を図っている。特に子育て支援広場「ぼけっと」は、平成19年1月の開設以来、年間延べ6千人超の利用者があり、地域の子育て支援の中核として定着しつつある。また、本格的なパイプオルガンが聖カタリナホールに設置され、教職員による演奏会実行委員会の下、毎年演奏会を実施している。これら社会的活動については、非常に積極的である。

評価領域Ⅷ 管理運営

寄附行為の定めに基づき、理事会及び評議員会が開催され、理事長は各関係者と密に意思の疎通を図りつつ適正にリーダーシップを発揮している。また、監事も毎回理事会及び評議員会へ出席し、財務及び業務全般を視野に意見を述べる機会を持つなど、管理運営体制は確立されている。

同様に、学長は建学の精神を踏まえ、教育研究活動全般についてリーダーシップを発揮している。また、理事長は教授会に毎回陪席し、必要に応じて運営方針などの説明を行うことにより、教授会構成員や各種委員会委員に対しても、学園の運営方針を踏まえた適切な審議が行なわれる環境を整えている。

事務組織は同一キャンパス内に併設の四年制大学と一元化されており、諸規程が整備されるなど円滑な事務処理体制が整っている。施設、備品など事務機器は整備されており、就業規則など、勤務に関する諸規則に基づき、教職員の過重勤務の防止に努めるとともに、健康管理、安全管理にも配慮がなされている。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は、関係部門の意向を集約し、寄附行為に基づき適切に行われている。私立学校法の定めに基づき財務情報は公開され、監事は公認会計士との連携を図りつつ、厳正に財務状況などの監査が行なわれている。

財務体質については、短期大学部門にあっては、過去3ヶ年間支出超過の状況がみられる。この改善について、中・長期の財務計画こそ策定されていないが、学科改組検討を目的とする学科別収支シミュレーションを繰り返し実施することにより、各学科の将来性及び収支好転の現実性などについて検討が重ねられ、健康栄養学科の募集停止を決定するなど、財務運営を健全な状態にするための施策が実行に移されている。中・長期の財務計画といった総合的、長期的な見地にたった内容でないものの、その

実効性の見地から改善の意欲がみられる。

評価領域 X 改革・改善

当該短期大学は「聖カタリナ大学短期大学部・大学評価委員会規程」にのっとり、自己点検・評価委員会が設置され、全教職員の協力の下に全学体制で組織的に点検・評価を実施している。各教職員から提出された自己点検・評価結果は自己点検・評価報告書として発行され、全教職員に周知され、現状理解と業務改善、授業改善に役立てられている。将来的にはさらに、地域社会のニーズに応えるため、今回の第三者評価（認証評価）によって、更なる改革と改善に努めていくことが期待される。